

リバーフェスタ班

平将門 竹内康之 中村健太郎 梅田徹

中尾雄司 財津貴美子 伊藤佐百美 森辰夫

〈年間活動報告〉

H20.8 リバーフェスタにて環境ブース展示（日田市）

私たち水環境委員会では毎年 8 月に行われているリバーフェスタに参加していますが今年は何を行うかまず考えました。昨年は大山ダムについての私たちの意見を展示しましたが、より市民の皆さんに水環境について考えてもらえるにはどうしたら良いかです。そこで以前、水環境委員会で作製しその効果も実証されている『えひめAI』をたくさんの人に広めて知ってもらっては？と考えました。

えひめAIの作製工程はいたって簡単です。

【えひめAI-2の製造方法（500ミリリットル）】

〈用意するもの〉

○原料（500ミリリットルを作る場合）

納豆（粘液でも可）1粒

ヨーグルト（飲むヨーグルトも可）25グラム

ドライイースト 2グラム

白砂糖や三温糖など 25グラム

水道水 約450ミリリットル

○器材 ペットボトル

（500ミリリットル）

手でよく振る（ミキサーでも可）

ヒーター（熱帯魚用ヒーターで35℃の温水浴）

又は、夏は直射日光の下でもよいです。

しかし、リバーフェスタでたくさんの人に配布するには最低でも200本は必要ですので100Lと大量に作る事にしました。





前ページの材料をまぜて、まぜて…。この作業を1週間続けます。

最初はドライイーストの反応でブクブクとガスが発生し異様な感じがしますが2～3日経ってくると乳白色になり匂いもなくなりました。

これで「えひめA I 2」が出来上がりましたので次は小分けします。



200本 無事に完成しました。

リバーフェスタ当日は天候に恵まれたたくさんの大人、子どもたちが参加していました。

その中で聖陵会ではブースを出展しました。



毎年の事で、委員会メンバーの準備もなれたものです。



さて、今年のリバーフェスタでの水環境委員会、最大の目的の『えひめA I』配布に取りかかります。当初は「えひめA Iを作った方がいいが誰も受け取ってくれないのではないか?」「話すら聞いてくれないのではないか?」という声
が委員会の担当者の中で話が上がりました。しかし、「その時はえひめA Iの

効果をしっかり説明して受け取ってもらおう」と話し合い配布しました。

委員会メンバーが積極的に声かけを行い説明し、配布していくうちに、午前中にえひめA Iをすべて配布する事が出来ました。「このようなものがあるならぜひ使ってみたい」や「以前から知っていたがこのようなものとは知らなかった」「つくり方を教えてほしい」という市民の声がありました。みなさんに作り方を書いた文章を同時に渡しご家庭でもぜひ作って使用してくださいと話しました。また、水委員会のメンバーでも今年から新たに加わった者もいました。初めは何をしてよいか分からないようでしたが、他のメンバーが説明しているのを見て刺激され自分から説明していました。私たちはこの様なちょっとしたきっかけから、水環境について関心を持ち、それと同時にいろいろな事が変わってくるものだと思います。

このリバーフェスタはさまざまな市民団体が集まって開催しています。水郷ひたでのこの取り組みを通じて、子どもたちが身近に水と関わりを持ち、大人の方も同時に少しでも水環境の事を考えて欲しいです。

そのきっかけ作りが私たち水環境委員会で出来ればと考えます。



2008年8月24日

水環境委員会 リバーフェスタ

水質検査

森山 ひとみ

最近のテレビ・新聞で河川や海の問題が取り上げられ、都市や工業地域の汚染は著しい。その汚染を追求すると、工場廃水、家庭下水、鉱山廃水、農薬汚染、船の廃油投棄などである。水質汚濁の影響は有害な重金属による問題と、BODなどの一般汚濁の両者が、人間の健康障害、水道原水の汚濁、農業・水産業に及ぼす影響など多方面に問題を提起している。

様々な環境問題が取り上げられる中、委員会が発足した平成12年以前より行っている、水質調査を日田市のシンボルである三隈川をはじめ9か所の川で今年も引き続き行った。

調査項目は、生活環境にかかわる汚染状態についての排水基準の項目であるCOD・BOD、その他にPH・水温・気温・天候である。

(COD)

CODとは化学的酸素要求量と言い、有機物を酸化剤で科学的に分解するとき消費する酸素の量で表わされる。特にCODの増える汚れの原因の半分以上は、家庭排水である。食べ物、洗剤も有機物であるため、食事後の油汚れなどはCODを上昇させる大きな原因になっている。

(BOD)

BODとは生物化学的酸素要求量と言い、河川水や工場排水中の汚染物質(有機物)が微生物によって無機化あるいは、ガス化される際に必要とされる酸素の量で表わされる。この数値が大きくなれば、水質が汚染していることを意味する。

(PH)

PHとは水素イオン指数のことであり、水域の水素イオン濃度を具体的な数値で表すものである。一般の都市下水では6.5～7.5の範囲にあるが工場廃水などの影響で、範囲を逸脱する場合がある。また、天候・気温・水温などにも強く影響される。

河川の水質基準として、AA域：BOD1 mg/l以下、A域：2 mg/l以下、B域：3 mg/l以下C域：5 mg/l以下、等と表わされる。一般には、C域までが魚の住める水質と言われている。またCODは、AA域：1 mg/l以下、A域：3 mg/l以下、B域：5 mg/l以下、C域：8 mg/l以下、と表わされる。以上のことをふまえて採水データを見ると、

冬から春にかけてBODが高くなる傾向がある。

ダム流域、病院前の三隈川三芳発電所付近では良いデータが得られている。

有田川では、COD・BODの値が他の川よりも高く、汚染が心配されるが、今年水質調査を始めたばかりなので、来年も引き続き調査を行う必要がある。

※4回にわたり、平成20年度水環境委員会冊子「輪」を紹介して参りました。最後までごらん頂いた皆様ありがとうございました。

来年もまた新たな活動内容をご紹介できればと思っております。